

人力検索

かきつばた杯

テーマ：
リドル・ストーリー

Vol. 6

この本をお手に取っていただき、ありがとうございます。

この本は、[株式会社はてな](#)が運営するQ&Aサイト「[人力検索はてな](#)」内で行われたショート・ストーリーのコンテスト「[人力検索かきつばた杯](#)」を各回ごとにまとめたものです。

コンテストは各回ごとに出题者が決めた、時には難解な、時にはややこしいテーマに従って2000文字程度のショート・ストーリーを投稿するもので、いかにテーマを活かすか、またはいかに出题者の裏をかくか、いわば出题者と投稿者の知恵比べです。

ですから、この本をもっと楽しむために、まず「自分だったらこういうお話にするかなー」と考えてみることをお勧めします。実際に手を動かして書いてみると、もっといいかもしれません。もしあなたが文章を書くことに興味を持ったなら、巻末の解説文もぜひ読んでみてください。そう、かきつばた杯は誰にでも開かれているのです。もちろん、あなたにも。

<Data>

テーマ：リドル・ストーリー

出題者：kuro-yo

募集期間：2010/12/1～12/7

URL：<http://q.hatena.ne.jp/1291207349>

※各投稿者のコメントや出題者の講評、投稿内容の後日談などが「人力検索はてな」のページには載っております。よろしければ、あわせてアクセスしてみてください。

<注意事項>

1. この本は電子ブックリーダーやスマートフォンでの読書を前提に、少し大きめの活字で作成しております。
2. この本ははてなユーザーが出题者や投稿者の許可を得て自主的に作成しているものであり、「株式会社はてな」による公式なものではありません。
3. 投稿者の許可が得られていない作品については、許可が得られた時点で掲載します。また、既にはてなを退会されており連絡が取れない方の作品については、省略させていただきます。

第6回 人力検索かきつばた杯テーマ

「リドル・ストーリー」

あなたなら、どんなストーリーを創りますか？

1. 暇なのでベッドの上でケータイをいじくりまわして遊んでいたら、 by yossiy7 (未許可につき未掲載)
2. ある日、学校で先生が、 by taddy_frog ★
3. 優柔不断小説 by NazeNani
4. ドリル・ストーリー by alpinix
5. うさぎのつみき いち by grankoyama
6. いちかばちか by sokyoo
7. 人生にさようなら by castle (未許可につき未掲載)
 - ★印は第三者がかけた懸賞の獲得者です。
 - この回では出題者からの優秀者の選定が行われておりません。
 - 作品にタイトルがつけられていない場合、最初の文をタイトルとしてあります。

ある日、学校で先生が、
「皆さん。宿題です。リドル・ストーリーを一つ作って来て下さい」と言った。

リドル？ カッコいい響きだな・・・
そう思って、物語を一つ作った。

昔昔、あるところに、リドルという名の騎士がいた。
ある国の王から、リドルの元に、竜を退治して欲しいと言う依頼が来たので、リドルはその国に言った。
リドルは竜と戦い始めたが、
竜が強すぎたので、城に引き返した。
次の日、もっと強う武器を持って竜と戦ったが、また倒せなかったので、城に引き返した。
そんな事が数日続いた時、王がリドルを、城で開かれたパーティーに呼んだ。
王はリドルに
「美味しい物沢山食べて、体力をつけたまえ。明日も頼むぞ」と言った。
リドルが食べている時、王が飼っている珍獣が広場に連れて来られた。
それは鱗が座布団に似ているので、ザブトノドンと名付けられていた。
その夜、リドルは別途に横たわりながら、
あのザブトノドンとかいう動物、どこかで見た事があるな
と考えていた。そのうち、竜もどこかで見たような覚えがある事に気がついた。
そしてしばらくして思い出した。
それは、学校で生物学の授業の時に見せられた絵であった。
タタミゴンという動物は、
子供の時は、体が丸っこくて、座布団に似た正方形の鱗を持っているが、
成長とともに、胴が長くなって、鱗の色が畳のような色に変わっていくのであった。
リドルは「親と子が似てないので気がつかなかった」と言った。
翌朝、リドルは王に、昨夜見た珍獣が、竜の子供だという事を王に話した。
すると王は、ザブトノドンを外に出せと命じた。
すると竜が現れて、ザブトノドンを背中に乗せると、飛び去り、
それ以後、その国に現れる事は無かった。

翌日、学校で発表すると、

先生は一言

「リドル・ストーリーの意味分かっているのか？」

リドルストーリーには究極の二択的なものが多い。
それぞれ両極端なものがその先にある赤の扉と青の扉、
絶対にどちらかの扉を選ばなくてはならないだとか...。
人生それ自体が選択の連続で、生きている間は
一種のリドルストーリーと言えるかもしれないが、
実際は、優柔不断な人だって、それなりに生きて行ける。
リドルストーリーの主人公は本当に二択のうちの
どちらかを選択したのだろうか。
もしかしたら、第三の他の選択もあったのではないか...
どちらかを取ったとかいうよりも、
その想像不可能な可能性の方を考えるのが楽しい。
かくして、このお話は始まるのである。

時は21世紀の英国ロンドン。
シャーロックホームズ博物館のあるベイカーズトリートを
クリネックスは歩いていた。
クリネックスだなんて名前を犬につけるなんて変〜と、
飼い主様は周囲の人に笑われたらしいけれど、
毎年、イースターの春休みの頃になると、
ダブルコートの下の白いふわふわとした毛が生え変わりで、
まるでクリネックス・ティッシュをボックスから
引き出すように次々ときれいにスパSPAと取れるので、
今ではみんな、愛称の「ネックス」で呼ぶんだ。
ネックスはバタシーにある動物愛護センターから
今の飼い主様にもらわれてきて、まだ5ヶ月の子犬だったけど、
大きくなりすぎて手におえないと思った前の飼い主様が
センターに預けたっきりだったので、両親や兄弟のことは、
ふかふかの白い暖かいお腹しかよく覚えていないのだけれど、
飼い主様の推理では、ネックスはアラスカン・マラミュートで、
シベリアン・ハスキーを一回り大きくした感じだけど、
みけんの模様がハートのように見えるのと、
ハスキーよりも大きいから、マラミュート犬なんだって。

「やあネックス！今日もどこかへお出かけかい？」と、
ご近所のシベリアン・ハスキーのワトスン君が

しっぽをパタパタ。

ワトスン君の名前は「よき相棒」という意味なんだって。

ワトスン君は両方の目の色がかたっぽずつ違っていて、片方がお父さんの色で、もう片方がお母さんの色で、狼の血が残っているから、とても知的で気の効くわんこなの。

「うん、これから、リージェントパークに行くんだよ。

ワトスン君はもうどこかに行ってきたの？」と、

こっちもしっぽをパタパタ。

「さっき、そのリージェントパークにも行って来たけど、今日は気をつけた方がいいよ。はしっこにある動物園から、リージェントパークの方に猛獣が逃げ出したんだって。」

「ほんと？じゃあ、反対側のプリムローズ・ヒルの方に飼い主様をひっぱって行った方がいいかなあ？

でも、僕が引っ張ると、叱られちゃうんだ。」

そこでワトスン君が、自分の飼い主様に向かって

「ウォ！」と吠えた。

そうしたら、飼い主様同士が人間の会話を始めたんだ。

「今、リージェントパークに行って来たんですけどね、お隣のロンドン動物園から猛獣が逃げたらしいですよ。」

ワトスン君の飼い主様がそう言うなり、

好奇心の強い飼い主様は少し目を輝かせて聞き返した。

「それは物騒ですね。一体何の猛獣が逃げ出したんですか？」

「それが…。あの敷地内にはリージェント大学の研究所があるでしょう？そこから逃げ出した、何やら珍奇な新型異種交配種の猛獣かもしれないという噂なのですよ。」

これには、動物愛護派の飼い主様の、英国挨拶特有のポーカーフェイスが少し崩れて悲しそうな顔をした。

「そうですか…。じゃあ、今日の散歩は、

他の公園に行った方がいいようですね。

情報、ありがとうございました！！」と、

はてなのようなお礼を言うのであった。

くんくん。他のわんこ達のおいがするぞ。

しかも大勢、こっちに向かっている。

そうか、僕たちはお隣のプリムローズ・ヒルに行くんだ。

あそこの常連のみんなに会えるかな！？

ゴールデンレトリバーのプーさんや
ダルメシアンの子犬ちゃん、
ビーグルのベグル君や、
ポメラニアンの子犬ちゃんにもよく会うよ。

プリムローズ・ヒルの丘の上まで一気に駆け上がり、
坂になった芝生のところを転がる様にして遊ぶ。
おうちフラットで狭いから、大草原みたいに
一面に広がる芝の上を自由に走り回るの、気持ちがいい。
ロンドンの公園は犬をリードにつながなくても、
犬達も人も慣れていてみんなマナーがいいから、
平和な感じなんだよ。たまにかっこいいカメラを持った
日本人観光客に写真を撮られるんだよ。
彼らはハイテクな国からやってきていて、
もの凄く写真が上手いんだって。

その後、ちょっと遠出をして、一般道も抜けて、
北のハムステッド・ヒースの方にまで歩いてきた。
ここは昔、一部が墓地だったとかで、近所の人によると、
夜には幽霊も犬を連れて散歩するっていう噂もあるんだよ。
犬を連れていくところが英国人らしいなあ。
でも高級住宅街にも近くて、公園と言うよりは、
広大な自然の草原と森のような緑豊かな美しいところ。
森には野生の鹿さんも住んでいるらしいよ。

飼い主様は芝生の上にジャケットを広げて座って、
「女か虎か？」という本を読みだした。
ねえ、座ってないでボールを投げて、遊んでようって、
お気に入りのテニスボールを口にくわえて持って行くと、
座って本を読んだまま、思いっきり高く遠くにボールを投げるんだけど、
この公園はものすごく大きいから決して道路にでることはないし、
もうすぐ一歳でもう大きいから、今ではそのボールが
空中で大きなアーチをかいて芝の上に落ちる前に
走って行って飛びついてキャッチして、
すぐに持って帰って来れるんだよ。
そしたら、飼い主様はまた本を読んだまま、
とんちんかん方向に思いっきりボールを投げるの。

あーあ、大きな木のある森のところまで来ちゃった。

森の方は、野生風で、あまり手入れがされていなくて、
走りにくいから、ボールが藪に隠れちゃう音の方を
ボールの代わりに耳でキャッチして、匂いもかいで
くんくんとかいで探さなきゃならないの。

...あれ？なんだろう？

何かの動物みたいな匂いがするぞ？

でも、猫でもなく犬でもなく、ちょっと人間みたいでいて
それとは違う、何かとっても不思議な匂い...

一度動物園に行った時に嗅いだ、

オオワシさんとライオンさんと象さんと、それとゴリさんと、
すっごく毛深くて眉毛が一本のおじさんが混じったような、
すっごく強烈にスパイシーで不思議な匂い...

余りくんくんすると、ひべっと一瞬横にひきつって、
鼻が曲がったみたいになっちゃった。

その時、遙か向こうからサイレンみたいな音が、
こっちにもものすごい速さで近づいて来るのが聞こえた。

あの音は、パトカーっていう、大きな音を出す、
日本の選挙カーみたいな車だと飼い主様が言っていた。
ネックスは日本という国は行ったことはないのだけど、
飼い主様は仕事の関係で、年に数回は僕を友人に預けて
日本の大学に教えに行っては、機械を色々買ってくる。

公園にいた人々の気がざわめいて、
木々の葉も風でざわざわと同時に音を立てた。

耳をピンとアンテナみたいにして、
遠くの人話し声をキャッチする。

「動物園から逃げ出した猛獣が、この周辺にまで
飛んで来たという情報があるので、至急に避難して下さい」

飛んで来た...？

上を見るけど、僕を囲う木達が風でざわざわ言っていて、
葉がたまにパラパラと舞い落ちてくるのしか見えない。
わんこは近視で、動体視力しかないから、

動かないものはよく見えない。

でも、このにおい...！

もし、この木の上に巨大な鳥のようなものが

停まっても何も見えない。

とりとめのないその強烈な匂いの方向を辿ろうとするけれど、

その匂いは、上や一方向だけから来るのではなく、

あたりに充満しており、北風が渦を巻くように周辺に渦巻いた。

夜の帳が空全体にゆっくりと、しかし確実に降りてくる、

大きな闇のように周囲を覆ってくるのだった。

こわいよー！

逃げなきゃ！！

飼い主様が遠くで「ネックスー！」と呼んでる声が聞こえる。

その声の方向にまっすぐ走って行ってじゃれつきたいけど、

飼い主様はあちこちを走り回っているみたいで、

声の方向があっちに行ったり、こっちに行ったりで、

回りは木に囲まれていて、木々の間をこだましてるみたい。

ネックスはまだ子犬なので、困ると自分のしっぽを追いかけて、

くるくると回る癖があって、こだまとそのくるくるで、

もうどっちから来たのかもよく分からない。

右に行っても左に行ってもその強烈な匂いがするし、

飼い主様の声もこっちやあっちからするから、

どっちに行っても良いのか分からない。

遠くでは車の音もいっぱいする。

飼い主様は言っていた。

それぞれの公園の中は自由に走り回ってもいいけれど、

公園の近くの、車がびゅんびゅん走っている大きな公道には、

車にはねられてはいけないから、ひとりでは出てはいけないって。

でも車がびゅんびゅんいってるのが聞こえる方が外側だから、

そこに行けば誰か人間がいて、助けてくれるかもしれないの。

だって飼い主様はネックスの首輪に名前と携帯番号を掘った

金のハート形のタグをぶらさげていて、迷子になったら、

それを見た人が、飼い主様がいつもポケットに入れてる

どこでも呼び出し機でネックスの居場所を教えてくれるの。

でも、そこに行くまでの道にはこわい猛獣がいるかもしれないの。

別の方向からは水の音が聞こえてきていて、ヒースには池はいくつかあるんだけど、中にはヒッピーのおじさん達が「裸池」って呼んでいる池があって、男池と女池とその真ん中の池っていうのに分かれていて、たまに夏になると裸で泳ぐ英国人達がいるんだって。でも人工池っぽくて水は汚くて、変な寄生虫もいるかもしれないから、野生の鹿さんさえも入りたがらないのに一部の人間は入っている！と飼い主様が驚いてたから、そこに飛び込むと、もしかしたら、猛獣さんも襲ってこないかもしれないの。でも、ネックスは泳げるか分からないし、変な寄生虫がいるかもしれないの。で、そこに行くまでの道にもこわい猛獣がいるかもしれないの。

かと言って、このままここで自分のしっぽを追いかけて只、くるくる回っていても、強烈な匂いが、どんどん渦を巻く様に、近づいてくるというわけなの。それで、レックスは更に必死に自分のしっぽを追いかけてくるくと回りながら、どっちに走り出すかを考えているんだけど…。

そんな時、ばさばさばさっ…という、木々の群れをまっぴたつに割るみたいな音も近づいてきて…。まさか猛獣…！？それとも、もしかして、飼い主様や選挙カーの人たちが助けに来てくれたの…？

「ネックスー！」

<未完>

5ページ目をめくったところで、S郎君が小声で呟た。

「ねえ、おしまいが無いお話があるって知ってる？」

少し前から遊びにきていたM凜ちゃんは耳をそばだてる。耳のいい彼女は独白に近い彼の小さな声にも反応できるようだ。

「おしまいが無かったらお話にならないんじゃないの？ それって本の後ろが破れてるとかじゃないの」

S郎君は大げさなしぐさでウンウンうなづいた後、おもむろに話し始める。

「それがね、あるんだ謎々みたいな本なんだけど最後にどうなったのかが書かれていないの」

M凜ちゃんは両足を揃えた特徴的な歩き方で部屋を横切って、S郎君の隣の椅子に腰掛ける。

「難しそう、いったい誰が書いているの？ 本屋さんにいけば買えるの？」

「A楠君が貸してくれた本にもそういうのがあったよ。東野圭吾の『どちらかが彼女を殺した』っていうの。最後まで読むと犯人を二人に絞れるんだけど、主人公の警察官が犯人を指摘する場面で唐突にお話が終わるんだ」

「ひっどーい、それじゃおちおち寝られないじゃない」

「一応文庫版の方には袋とじの解説があって、推理するポイントが挙げられているから、大抵の人はそれを読めば正解にはたどり着けるよ。でも、続くシリーズの『私が彼を殺した』に至っては、犯人は3人、3人とも平等に紙面を割かれて書かれているから一見しただけでは誰もが怪しい状態でこちらもお話が終わる。まあ、こっちも文庫版には解説がついてるから、消化不良になりたくなければそっちを進めるね」

「失礼ね、私はベジタリアンだし便秘になったことないわよ」

ノンブルが7に変わったところで、S郎君はパソコンを取り出した。

「こんどはなあに？」

「うん、こういうおしまいが書かれていないお話の中でも一番有名なやつを教えてあげようと思ってね。」

<http://f59.aaa.livedoor.jp/~walkinon/ladyortiger.html>

女か虎か

「ヘーネットに全文紹介されてるのね、フランク・ストックトンの『女か虎か』ね。面白そう」

「短いお話だからすぐに読めると思うよ、どうぞ」

パソコンの画面を彼女が読みやすいように彼女の真正面に向けてあげる。

ありがとう、視野は広いけど視力は良くないの知ってるのね。

彼女は最後まで一機に読み進んだ。

「この王様も意地悪よね、どうしてこんなことするのかしら」

「さあ、あくまで作り話だからね。まあ好意的に解釈すれば娘をどこの馬の骨が分からない若者には渡したくなかったのかもしれないし権力を誇示したかっただけかもしれない。あとローマの剣闘士も奴隷が猛獣と戦って時には命を落としたそうだけど、あれは市民に娯楽を与えることが皇帝の職務の一つになっていたから、という説もあってなかなか一筋縄ではいかないんだけどね」

「え～、じゃあ人殺しショーを望んでいたのは市民の方だってこと？ 信じられないわね」

最後のページに到達した。

「ところでこのお話、結局どっちが正解なの？ 回答編はないわけ？」

「それが無いからおしまいのお話なんだってば。でもおもしろいでしょ、どっちだと思う？」

「わっかんないわ。どうしてこれでお話が成立しているのかも私の頭では理解できてないかも。難し～い」

「じゃあさ、君が王女様ならどっちの扉を教える？ 君の大事なパートナーがこんな状況になったらさ」

「それって、扉の向こうは獰猛な虎と人間の美女ってことよね。だとしたら決まってるじゃない」

「君にこの質問は愚問だったかもね。でもその仮定はパートナーは僕じゃないってことだよ」

「もちろんそうよ、あなたとは結婚できないんだから。うぬぼれないでちょうだいね」

来週号のお知らせ

うさぎのつみき いち
うたつき

あるひうさぎがいました

うさぎはつみきがほしかったんです。

うさぎがでんしゃにのりました

すごいはくりよくでした

うさぎはきょうはうんどうかいでした おしまい

♪ うさぎのことは きにしなくても みんなであそーぼおーよ だかーらーたっ
たん。

上のお話は私の息子の第3作目。原本は絵本であり、画像が紹介できないのが残念。
良い機会（どれだけ悩んでも納得のいくリドルストーリーなんて完成しない）なので
これを回答にしようと思いました。

では、僭越ながら解説に移ります。

タイトルが「うさぎのつみき」。表紙の絵から察するにうさぎときつねが登場するお話のよう
です。

「うたつき」というのは、歌が付いているという意味。実際にそのような絵本を見て学んだの
でしょう。

物語の序盤にはうさぎが登場します。絵を見てもどこで何をしているのかはわかりません。

うさぎが求めているのはつみき。起承転結でいうところの承でしょうか。タイトルどおりに
順調に話が進みます。

電車に乗ります。前後の脈絡はわかりません。迫力ということばが示すとおり物語は一気に加速
します。

(実際にそれを証明するかのごとく見開きで2ページに渡って大きな電車が描かれています)

そしてラストには運動会であったことが明かされます。うさぎとその横にひっそりと置かれたつみきの絵。

しめやかにエンディングテーマが流れます。

裏表紙には、ちゃんと「うさぎのつみき に」のイメージが描かれていました。(あとバーコードらしき黒い何本もの線と)以上。

年を取って、いろんな経験を積んで、いろいろなものを得たのは間違いない事実。でも、その代償って得たものに見合うものだったのか?どうなんだろう?

人生なんて、所詮はリドルストーリー。悩んでたってしょうがない。いや、人生をステキなリドルストーリーとして完結するために、精一杯悩んで生きれたらいいのかな。

どっちだろう。どっちでもいいね。

fin

果たして王女の出した結論はどちらであったろう - 『女か虎か?』。

ぱたん。

私は本を閉じた。気付いてしまった。このバイト、治験じゃない。

そういえば最初から変だった。だってここ病院とかじゃなくてただのアパートだもん。最上階の真ん中のしがない402号室だもん。なぜか部屋から出ることは一切禁止だったもん。毎日届くお弁当を食べて、大きなバスルームのお風呂に入って、シャンプーで髪を洗うだけだもん。おかげで毛先15cmがぶるんだもん。でも。

私、「美女」だ。いちごちゃんかわいいねってちっちゃいころから言われてきたしぶっちゃけ自分でも悪くないと思うけどそういう意味の美女じゃない。私は『女か虎か?』の「美女」の役させられてるんだ！

完全にはめられた。

最終日に迎えが来るって王都のスタッフさん言ってたけど、その迎えてつまりあれじゃん、この本に出てくる「若者」のことじゃん。そういうことだったんだ。

したら急に寝室が気になった。あ、だからこんなにベッド大きいのかー♪ て、えやば。試しに私は今まで開けたことのなかったナイトテーブルの引き出しを開けてみた。現実に見るのは初めてのいろんなアレが入ってた！ っ。てことわ。

えーむりむりだって私まだ…。どうしようたぶん例の「若者」が来るんだ。最終日って今日だし。王さま悪趣味すぎだし。「若者」が来たらはいめでたし→バイト代さんきゅ→ばいばい！でいいじゃん。え、でもこのオトナな充実ぶりってー。榎本いちご、人生最大のピーンチ☆

…ポーズをキメてる場合じゃなーいっ！ 「若者」ってどんなだろう？ 王女ってどうせ金持ちの一人娘なんだからろくな趣味じゃないに決まってる。やばーキモピザだったらどうしよ？ で、

「フヒヒ、ボクの、言うなれば“USB”をキミに挿しても…いいかな？」（ここで変なウィンク！）とか言うの。わーマジキモ！ マジむりマジむりマジむり、生・理・的・に・む・り！！

じゃ、403の虎蜂さんところ行ってかくまってもらおう？ ん、でも、虎蜂さんは…虎の役ってこと。えあの寡黙そうな中年紳士が人間を食べるわけ？ えーでもありうるかも。変身すんのかな。そういえばこの間ドンキの袋持って帰ってくるのドアアイ越しに見たけど、あれ、なんか変なモノだったらどうしよ？ やばー実はドSとかだったりして。行ったら片手にムチ、片手にシースルーのメイド服で、

「さあこれを着るんだ。…こら、返事はこうだろうー『はい、ご主人さま♪』（←ここだけ声色ちがう）」

とかだったりして。…てかまじムリまじムリまじムリ、人・格・的・に・ム・リ！！

どっちにしてもここを逃げなきゃ。まだ時間はあるはず。

私はもう一度、本を開いた。ヒント。なにかヒントは。

リドル・ストーリー（riddle story）とは物語の形式の一つ。物語中に示された謎に明確

な答えを与えないまま終了することを主題としたストーリーのこと。

ページが終わった。てかもうぜんぜん役に立たないこの本まるで辞書みたい。

逃げよう。いや外はあれかも、さりげに警備とかしてるのかも。

よ、401号室に逃げようか。若い夫婦的な気配がしてたけどここ10日ぐらい音がしないから。旅行にでも行ってるのかもベランダ越しならたぶん行けるはず。だって緊急事態だもん許してくれてもいいよね。

とにかく私は逃げる。ぜったい逃げる。逃げてちゃんと現実に戻って、

...あいつに思いを伝えよう。

っしや、逃げる！リドル・ストーリーがなによ。「物語中に示された謎に明確な答えを与えないまま終了」ってなんなのよ。私ね、今までの人生で終了なんて今んとこなかったんだよ。18年だけどちゃんと続いてきたんだ。[id:kuro-yo](#)さんだってそうでしょう？物語は終わったって生きることとは続くのよ。私は生と向き合わなきゃ。生きてたらうやむやにできないことだってあるんだから。こんなところで「終了」なんて絶対絶対やなんだから！

私はベランダに出た。401までは地続きだ。4階に上がるには401の前を通るしかないし私はここでドアアイを見張って「若者」の正体を見届けよう。いいヒトそうだったら助けを求めてみよう。だめそうだったら...虎男に食われろ。

ところが、401の掃き出し窓はカギがかかっていた。中は...だれもいないみたい。割らないと入れないかも。割ろうか。割らないと。なんか武器。あとスリッパ。

一度部屋に戻って、私は突っ張り棒とスリッパを持ち出した。割るぞ。割らないと。

そのとき、外の道路にクルマが止まった音がした。言っとくけどこんなに人通りのない狭い路地、そうそうクルマなんか来ない。しかも止まったなんてこのアパートに用があるとしか思えない。えてことはもしかして、もう来た？

ありうる。こっからじゃ道路は見えないけど、時間はないや。ぜんぜんないや。外階段を上がる足音が近づいてる。私は渾身の力でガラスを割った。いちかばちかだ。でも、私は、絶対にあきらめない。

解説（人力検索かきつばた杯について）

この本を手にとられて、「人力検索かきつばた杯」に参加してみたいと思ったあなたのために、参加方法を簡単に解説しておきます。

参加には以下のステップが必要です。順を追って、説明いたします。

1. 「はてな」へのユーザー登録
2. 「人力検索はてな」内で開催されているかきつばた杯への投稿or「人力検索はてな」内でのかきつばた杯の開催

1. 「はてな」へのユーザー登録

「人力検索かきつばた杯」は複合サービスサイト「はてな」の中で行われているので、まずは「はてな」へのユーザー登録が必要です。「はてな」へのユーザー登録にはメールアドレスが必要ですが、有料オプション（※）を使用しない限り費用は発生しません。なお、「はてな」へのユーザー登録を行うとQ & Aサイトである「人力検索はてな」以外にも「はてな」内のブログ（はてなダイアリー）やオンラインフォトストレージ（はてなフォトライフ）などのサービスが利用できるようになります。

（※）有料オプションには、例えばブログ内で広告を出さないようにしたり、ストレージの容量を上げたりするもののほか、人力検索でポイントつき質問をするものなどがあります。

「はてな」へのユーザー登録は「はてな」のトップページからできます。

2-A. かきつばた杯へ投稿する（費用負担なし・初心者向き）

無事ユーザー登録を終えたら、「人力検索はてな」でかきつばた杯が開催されているか調べてみましょう。トップページ最上部の検索窓に「かきつばた杯」と入力して検索をかけると過去のものも含めた一覧が出てきます。最も上にあるのが最新のものですので、開催中のページ（Q & Aサイトですので、「質問ページ」と呼ばれます）を開いてみましょう。ここではサンプルとして

第1回の質問ページのスクリーンショットを掲載します。

hokuraku
110 105 もっと見る

ポイントあり 219 pt ベストアンサーあり
芸術・文化・歴史 ネタ・ジョーク

【人力検索かきつばた杯】

テーマ:透明感のある文章

創作文章(ショート・ストーリー)を募集します。
ルールははてなキーワード【人力検索かきつばた杯】を参照してください。

締切は10月6日(水)朝6時、締切後に一斉オープンします。

★★★★

規約違反として通知

(広告スペースのためモザイク処理しておきます)

回答の条件
✓1人1回まで ✓13歳以上

登録:2010/10/01 06:59:34
終了:2010/10/07 05:26:48

ログイン状態で質問ページにアクセスした際に、まだ投稿を受け付けている場合は、この画像の下にある広告スペースと灰色の部分との間に「回答する」というオレンジ色のボタンが出ています。(画像のものはもう終了した回なのでボタンがありません)

投稿は回答用のテキストボックスに記入し、「この内容で確認する」というボタンを押せば(内容確認を経て)投稿できます。長い文章なので、あらかじめ別のファイルに書いておいてコピーするほうが安全ですよ。また、慣れてくればテキストの文字サイズや色を変えたり画像を入れたりすることも可能ですので、ぜひトライしてみてください。

え？投稿を受け付けているものがない？そんなときは、あなたがテーマを決めてかきつばた杯を開催することも可能です。

2-B. かきつばた杯を開催する(費用負担あり・上級者向き)

「人力検索はてな」は最近リニューアルして費用負担なしに質問をすることができるようになりましたが、「人力検索かきつばた杯」では以前からの慣習もあり、テーマを決めた主催者から投稿者に対して「はてなポイント」（はてな内で使える仮想通貨のようなもの）を送ることにしています。（つまり、あなたが投稿者なら出題者からポイントをもらえる、ということです）送るポイント数には決まりがありませんが、投稿者一人当たり大体20～30ポイント（20～30円相当）くらいが多いようです（ポイントは購入するか、ポイントつき質問に答えて貯めましょう。なお、ポイントつき質問の最低必要ポイント数は100ポイントです）。

質問文自体はテーマ以外が定型文ですので、既にあるものをコピーさせてもらいましょう。もしあなたが人力検索で初めて質問をする場合、質問文中に「初めての質問ですので至らないところがあったら申し訳ありません。」とでも書いておけば、親切な皆さんが色々と教えてくれるでしょう。あらかじめ過去の質問（開催状況）に目を通しておくと雰囲気がかめると思います。

人力検索かきつばた杯 ～リドル・ストーリー～

<http://p.booklog.jp/book/43634>

著者 : hokuraku

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hokuraku/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43634>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43634>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.